

1 未来を担う人材の育成

(1) プログラム開発の背景

本道においては、全国を上回る本格的な人口減少・超高齢化社会が到来する中で、将来にわたって持続可能で活力ある地域社会を築き上げていくためには、道民一人一人が心豊かに、相互に支え合いながら暮らす、自立性の高い地域づくりを進めていくことが求められている。

一方、全国学力・学習状況調査（R4）の児童生徒質問紙において、「放課後や週末は何をして過ごしていることが多いですか」の問い合わせに対して「地域の活動に参加している」と回答した本道の児童生徒の割合は全国平均を下回っていることから、地域の魅力を発見し、人々とのつながりを実感するとともに、主体的に地域の課題等に向き合う機会が必要であると考えられる。

こうしたことから、道立青少年体験活動支援施設において、地域の教育資源を活用し、将来、地域を担うであろう青少年リーダーの養成に関わるプログラムを開発するものである。

(2) 普及のポイント

「地域社会での問題への興味・関心」を喚起するプログラム内容にすること、フィールドワークやグループでの討議をもとに「地域の一員としての責任」を自覚させ、「身近なことから社会に貢献する実行力」を養うことがポイントとなる。

(3) 各施設における事業名と主なアクティビティ等

砂川	ジュニアリーダーコース Hokkaido in Sunagawa
令和3年8月10日（火）～11日（水） (1泊2日)	基調講演、演習「まちの魅力を発信する番組づくり」など
森	フロンティアリーダー養成アカデミー
令和3年7月28日（水）～8月1日（日） (4泊5日)	SDGs や災害についての事前学習、講話、防災学習施設見学、避難所体験、調査活動、行動計画作成 ポスターセッションなど
足寄	ジュニアリーダーコース
令和4年1月8日（土）～10日（月） (2泊3日)	まちおこしに携わる方へのインタビュー、グループワーク（行動計画作成）、発表会など
厚岸	フロンティアリーダー養成アカデミー
令和3年8月2日（月）～6日（金） (4泊5日)	講話、SDGsについての体験学習、野外活動（地域の自然や歴史を体験）、行動目標作成、発表など

ジュニアリーダーコース in sunagawa

1 事業のねらい

将来のリーダーとなる中学生及び高校生を対象に、地域課題の解決に向けた実践的な学習機会を通じて、次世代の地域リーダーとしての資質向上を図る。

2 事業の概要

- 期日 R 3.8.10 (火)～11 日 (水) 1泊2日
- 対象 中学生及び高校生
- 人数 6名 (3市町)
- 場所 ネイパル砂川

3 プログラム

	6:45	7:45	9:00	12:00	13:00	13:45	14:15	16:00	17:30	18:00	19:00	20:30	10:00
1日目				受付 13:30～		開会式	講演	演習①	ペットメイク	夕食	演習②	入浴	就寝
2日目	起床・清掃	朝食	演習③	昼食	ふりかえり	閉会式		解散 14:00予定					

4 ねらいを達成するための活動の工夫

■研修テーマと活動内容の設定

- ・テーマを「我が町のイチオシを FM ラジオで PR しよう」、活動内容を「ラジオ番組を制作し、収録を行う。」と設定し、ゴールを明確にした。

■地域のことを主体的に考える活動

- ・演習等で話し合いを進めることによって、それぞれの地域の魅力や効果的な PR 文などについて、考えられるようにした。

■相手に伝わる話し方の工夫

- ・印象に残る放送番組を制作するため、講話やグループワークをとおして、聞き手を意識した話し方や原稿のまとめ方について、学びを深められるようにした。



相手に伝わる話し方を学ぶ



地域のことを主体的に考える活動

5 事業の評価

■アンケートから

- ・「地域の一員であることの自覚」や「仲間との協働」という項目では肯定的な回答が 100% であった。
- ・「地域の魅力発信」の項目は、「とてもよくできた」が 66.7%、「よくできた」が 33.3% であった。

■参加者の声

- ・他の町の魅力を多く聞けたのはとても良い経験になりました。
- ・文章の構成やよく伝わる話し方なども学ぶことができ、収録は緊張したけど、満足のいく番組をつくることができた。
- ・一つの目標に向かい、時間を問わず活動したのが楽しかった。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

○放送番組では地域の魅力が楽しくわかりやすく伝えられていたことから、講演・演習等により、主体的に地域について考えることができたと考えられる。

●コロナ禍に伴い市町村派遣の参加者が減っている。今後、リーダー養成事業を活性化するためには、市町村教委との連携が不可欠であり、趣旨を理解し協力してもらえるよう、前年度から依頼をする必要がある。



企画のポイント

参加者の主体性を引き出す目標設定とグルーピング。課題解決に直結する講話と演習。

フロンティアリーダー養成アカデミー

1 事業のねらい

中高生を対象とした、地域資源を活用した体験的な学習や「SDGs」の推進につながる地域課題の解決に向けた実践的な学習機会を通じて、次世代リーダーの育成に寄与する。

2 事業の概要

- 期日 令和3年7月28日～8月1日
- 対象 胆振、後志、檜山、渡島管内各市町村の中高生
- 人数 21名（21市町）
- 場所 ネイパル森、奥尻町、函館市内

3 プログラム

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
7/28 (水)						移動		集合 昼食	開会 アイス ブレイク	○研修1	○研修2	○研修3	夕食	○研修4	入浴 振り返り 奥尻研修へ向けて	就寝	
7/29 (木)	起床	朝食 準備	バス移動 (森→ 江差)		フェリー移動 (江差→奥尻)		昼食 移動			○島内研修			夕食	移動	入浴 翌日準備 振り返り	就寝	
7/30 (金)	起床 移動	乗船 準備	フェリー移動 朝食		バス移動 (江差→函館)	調査 準備	昼食	○調査	バス移動 (函館→森)	研 修5	○グループ 協議1	夕食	入浴 休憩 振り返り	体験活動	就寝		
7/31 (土)	起床	朝食	○グループ 協議2	○グループ協議3		昼食		○グループ協議4				夕食	○グループ 協議5	入浴 休憩 振り返り	就寝		
8/1 (日)	起床	朝食	最終準備	○演習 ポスター セッション	講評 閉会												

4 ねらいを達成するための活動の工夫

■主体的に学び、考える活動

- ・テーマ「地域住民のつながりを構築するために自分たちができること」に設定し、各地での研修で学び、参加者の協議を通じて主体的に地域のことを考える課題を取り入れた。

■地域素材を活用した研修内容の設定

- ・災害復興の観点からテーマに迫るために、奥尻島での研修を実施するなど、道南地方ならではの内容を取り入れた。

■講師陣の厳選

- ・研修テーマに関わって第一線で活躍する人材を招聘した。



奥尻島津波館で災害と復興を学ぶ



アクションプランを発表・交流

5 事業の評価

■参加者アンケート（「よくできた」「できた」の合計）

- ・設問「地域のつながり作りのために自分ができることを考えた」：100%

■参加者の声

- ・4泊5日の研修を通じて、今まで意識していなかったことに気づけて、自分の考えが180度変わったと思う。
- ・奥尻高校生や他校生徒との交流は発見することが多かった。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 参加者アンケートでは、参加したことによって視野が広がったこと、同年代から刺激を受けたこと、学校に戻った後の決意や展望などが述べられており、地域課題の解決に向けて主体的に取り組もうとする意欲を高められた。
- アクションプランを発表して研修を終了したが、立案したプランを実際に地域で行うなど、体験的な学びができるようにすることが必要である。



企画のポイント

道南全域を学びのフィールドとし、参加者が思考を深められる研修・協議の実施

ジュニアリーダーコース

1 事業のねらい

地域のよさや課題、よりよいまちづくりの方策等を考える活動をとおして地域活動に参画する中高生リーダーを育成する。

2 事業の概要

- 期日 R4.1.8(土)～1.10(月) 2泊3日
- 対象 中学生、高校生
- 人数 20名
- 場所 ネイパル足寄
- 協力 足寄町商工会青年部、安藤整骨院
ゲストハウスぎまんち、足寄ひだまりファーム

3 プログラム

	6:30	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
1/8									14:00 受付	受付	開会		足寄で働く大人にインタビュー	GW①	夕食	GW②	入浴・交流 就寝準備・就寝
1/9	起床	朝食	活動準備		GW②			昼食		GW②		発表準備	夕食	発表準備		入浴・交流 就寝準備・就寝	
1/10	起床	朝食	清掃	発表準備	全休発表	講評	振り返り	閉会	昼食	12:15 解散							

4 ねらいを達成するための活動の工夫

■実際にまちおこしに携わる大人と交流する

- ・実際によりよいまちづくりのために日々活動をしている大人の講話やインタビューをとおして、アクションプランのイメージがより具体的に膨らむようにした。

■より実現可能なアクションプランになるような設定をつくる

- ・アクションプランの実施場所を「ネイパル足寄」と限定し、より現実的なアクションプランを考えられるようにした。
- ・講話していただいた大人や市町村の教育委員会の方にご参観いただき、アクションプランのプレゼンを行うことで、実際に事業を行うときの協力者として地域の方が介入できるよう、今後の繋がりをつくった。



実現可能なアクションプランを考える



参加者の繋がりが深まった

5 事業の評価



■共通アンケートから

- ・「他者との協働」や「創造性やチャレンジ精神」では全ての参加者ができたと回答をした。

■参加者の声

- ・今回の経験を生かし、もっと私たちの住む町をより良くしたい。
- ・高校生の自分には何ができるのかを考えることができた。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 町おこしをしている方の講話で終えるだけでなく、発表の参観まで関わっていただくことにより、大人からのフィードバックに加え、中高生が考える地域づくりへの熱い思いを伝えることができた。
- 帯広市と帯広市以外という分け方で中学生のグループを作成したが、地域のよさや課題に大きな差が見られなかったため、混ぜても面白いプランが作れそうだと感じた。



企画のポイント

より実現可能なアクションプランにするための設定作りと地域の大人との繋がりを作る

フロンティアリーダー養成アカデミー

1 事業のねらい

将来の地域リーダーとなる中高生を対象に、地域資源を活用した体験的な学習や「SDGs」の推進につながる地域課題の解決に向けた実践的な学習を通して地域リーダーの育成に寄与する。

2 事業の概要

- 期日 R3.8.2 (月)～6 (金) 4泊5日
- 対象 中学生及び高校生
- 人数 11名(9市町村)
- 場所 ネイパル厚岸・塘路湖
- 主管 北海道教育庁釧路教育局

3 プログラム

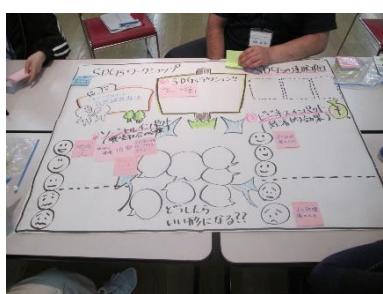
	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
8/2 (月)							バス移動	昼食受付	開会式		研修1 地域おこし協力隊による講話	夕食	交流活動1	入浴自由時間		就寝	
8/3 (火)	起床洗面	朝食	準備		鯖江市JK課との交流	研修2		昼食		研修3 SDGsボードゲームの体験	夕食	交流活動2	入浴自由時間		就寝		
8/4 (水)	起床洗面	朝食	準備	バス移動		野外活動 塘路湖又一体験 (途中昼食)		バス移動	研修4 地域の良さ・問題点の確認	GW1 釧根地区の自然の活用 にSDGsの視点を	夕食	GW1	入浴自由時間		就寝		
8/5 (木)	起床洗面	朝食	準備		GW2 釧根地区でできることを考える		昼食	GW3 発表	全体演習 マチと個人の関わり	個人1 地元のマチの行動目標	夕食	個人1	入浴自由時間		就寝		
8/6 (金)	起床洗面	朝食	清掃	個人2 行動目標発表	閉会	昼食	バス移動										

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 複数市町村からの参加者が交流する機会の提供
 - ・感染症対策に配慮しながらも、交流の場をできるだけ設定することで、現地開催の意義を持たせる。
- 参加者の意識の変容から行動へつなげる
 - ・地域と関わる人の活動や思いを知ることで、地域に対する意識を強く持ち、行動を変えるきっかけとなるようにする。
- 自分自身を見つめ直す機会の提供
 - ・地域課題に対して、参加者が普段取り組んでいる活動と興味のある活動を関連付けて、自分事として捉えるようにする。



鯖江市JK課OBに先進事例を学ぶ



SDGsの視点でまちづくりを考える

5 事業の評価

- アンケートから
 - ・「地域活動に関心を持つ」「参加者同士の交流が深まった」「新しい学びや発見があった」などの項目で、肯定的な回答が100%であった。
- 参加者の声
 - ・いろいろな人の話を聞くことで、新しい考え方を広げることができた。
 - ・まちづくりを明確に考えて行動しようと思えるようになった。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 福井県鯖江市JK課OGから話を聴くことで、中高生による地域への取組を具体的に知ることができ、参加者が実現可能な内容で地域に対する行動目標を考えることができた。
- 本事業終了後は、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言発令等により、参加者は地域の活動を思い通り進めることができなかつた。

企画のポイント

参加者の「興味・関心」と「地域の取組」をつなぐことで、積極的な地域参画を促す

未来を担う人材の育成に関する体験プログラム(実施した全施設を集計)

【実施の背景】

本道においては、全国を上回る本格的な人口減少・超高齢社会が到来する中で、将来にわたって持続可能で活力ある地域社会を築き上げていくためには、道民一人一人が心豊かに相互に支え合いながら暮らす、自立性の高い地域づくりを進めていくことが求められている。

一方、全国学力・学習状況調査(H28)の児童生徒質問紙において、「地域や社会で起こっている問題や出来事に关心がありますか」の問い合わせに対して「当てはまる」と回答した本道の児童生徒の割合は、全国平均を下回っていることから、児童生徒に対して積極的に地域に関わる場や機会を提供することが必要となっている。

【主なアクティビティ】

- ・まちづくりに関するフィールドワーク
- ・講師を交えたワークショップ
- ・グループワーク
- ・講師による講演
- ・ポスターセッション
- ・地域住民等への発表会

【アンケート結果】(回答数 54 名)

